

ポーランドにおける治安及び防犯上の注意 ～旅行・滞在を楽しむために～

ポーランドの政治・社会情勢は、総じて安定しています。日本に比べ犯罪の発生率は高いものの、欧米主要国と比較して大きく悪いという状況にはありません。

しかし、「ここは日本ではない。外国なんだ」との意識を持ち、ある程度の緊張を保ちつつ、ポーランド旅行・滞在を楽しんでください。

あやしげな場所に“突撃”するのは“蛮勇”です。賢明に危険を避ける気持ちが“勇氣”です。

トラブルに巻き込まれてお困りの際は、日本大使館にご連絡ください

- ・ 平日(午前8時30分～午後5時まで)： 代表電話 22-696-5000
- ・ 土日・祝日及び閉館時間(平日午後5時から翌午前8時30分まで)の緊急連絡は、代表電話番号より自動転送されます。

1. ポーランドの犯罪事情と対策

普通に生活する範囲内(レストランでの食事、買い物、散歩等)で、生命の危険を感じることはほとんどありません。しかし、アジア系の滞在者が少ないポーランドでは、歩いているだけでも注目が集まります。また、親日的傾向が強いだけに、日本人はなおさら目立つ存在となります。これは、犯罪者にとっても同じです。

在留邦人や日本人旅行者の被害の大部分は、観光地や公共交通機関において、観光客を狙ったスリ、置き引きの被害に遭うものです。

不審者につきまといわれたり、不穏な気配を感じたら、そのままにせず、人通りのある場所に移動するか、巡回中の警察官に助けを求めてください。

他方、在留邦人の被害には、それらの被害に加えて、車上狙いや住居侵入(空き巣)による盗難も考えられますのでご注意ください。

〈スリ・置き引き〉

観光地、バス・トラム(路面電車)等の公共交通機関では、スリが多発しているため、貴重品をしっかりと確保してください。特にバックパック(リュック)を背負ったまましていると、格好の標的となります。

スリ犯は、複数人で役割分担をしながら巧みに犯行に及ぶことが多いため、旅行者は被害に遭っても、その場では気付かないことがあります。犯人グループの一人が、旅行者に親切な素振りで話しかけてきたり、混雑した場所で進路を阻むなどして旅行者等の注意をそらした間に、別の犯人が犯行に及ぶ事例も見られます。

レストランや喫茶店で食事をしている間に、座席の上に置いていたカバンを奪われたり、椅子の背もたれにかけていた上着からサイフが盗られることがあります。犯人グループの一人が、親切そうに話しかけるなど、気をそらせて犯行に及ぶこともあります。

〈強盗・窃盗(空き巣)〉

夜間の一人歩きをなるべく避け、治安の悪そうな場所は迂回してください。夜の移動は、なるべくタクシーを利用することをお勧めします。“流し”のタクシーが少ないことから、英語が通じるタクシー会社に電話で連絡し、配車してもらおうとよいでしょう。

長期間家を留守にする場合、定期的に部屋の明かりが点く装置を設置するなど、留守宅であることを悟られない方策を採ってください。

観光地などで仲良くなった人間と食事をする場合、勧められた飲み物には十分ご注意ください。睡眠薬を飲まされ、貴重品を奪われることもあります。



〈列車内での盗難〉

単独で長距離列車を利用していた日本人が、仮眠中にカバンやウエストポーチなどから貴重品を盗まれる事件が発生しています。狭い車内ですれ違う際に、サイフをすり盗られることもあります。また、トイレに行くために席を立った際に置き引きに遭うこともあります。

日中でも列車移動中は注意を払うとともに、貴重品は分散所持を心掛けてください。夜行列車を利用される際は、寝台車(スリーピングカー、個室に鍵がかかり、各車両に車掌が同乗)を利用することをお勧めします。

クラクフーワルシャワ間等の長距離列車、プラハークラクフ間及びブタペストークラクフ間等の夜行国際列車を利用される場合は特に注意してください。

窃盗犯は、駅ホームを徘徊して標的を物色しているため、駅ホームで“旅行者然”とした姿を見せてはいけません。また、駅での置き引きにもご注意ください。

〈ニセ警察官〉

街中で警察官を自称する私服の者から、「パスポートとサイフを見せろ」と言われることがあります。うっかり、サイフを渡してしまうと、現金やクレジットカードが盗られてしまいます。加えて、カードリーダーのような機器にクレジットカード等を入れ、暗証番号を教えるよう詰問されることもあるようです。

ニセ警察官は、警察の身分証らしきものを見せ、“麻薬捜査への協力”などの発言で、サイフを“任意提出”させようとしています。こうした場合、「警察署まで行きましょう。話はそこでします」、「日本大使館と連絡をとりたい」との姿勢を見せ、サイフは渡さない、カード等の暗証番号は絶対に教えないでください。また、やりとりの際、人気のない場所に誘いこまれないよう、ご注意ください。

〈クレジットカード詐欺〉

日本でも多い犯罪ですが、レストラン・買い物でクレジットカードを使用した際に磁気情報を盗まれ、後日、磁気情報を読み込ませた偽造カードを使って買い物をされてしまうケースがあります。

クレジットカードを使用する際には、店員が正しくカードリーダー(クレジットカードを読みとる小型の機械)を使用しているか、自分の目で確認してください。

クレジットカード自体が盗まれた場合、速やかにカード会社に連絡するとともに、万が一に備え、カード会社の連絡先を控えておきましょう。

〈キャッシュカード窃盗〉

ATM(現金自動預け払い機)に小型テレビカメラを仕掛け、暗証番号を盗み見た後にカードを窃盗・強奪し、現金を引き出すことがあります。

また、空き巣に入られるなどして、キャッシュカードが盗まれた場合、すぐに使用停止を申請してください。ポーランドのATMは、暗証番号を入力する回数に制限がないため、現金の引き出しが容易になっています。

ポーランドでは、街角の壁面にATMが設置されていることが多く、現金をおろす際には周囲にご注意ください。

〈誘拐〉

2006年にワルシャワで中国人ビジネスマンが誘拐された事件(後日無事解放)以降は発生はしていません。但し、身代金目的から、誘拐される可能性は排除できませんので、通勤・通学の際には、同じ道を通らず、また、時間をずらすなどして移動パターンを把握されないように心がけてください。

2. テロ関連

現在、イスラム過激派によるテロが発生するとの具体的情報はありません

ポーランド国内における日本の権益(日本企業、日本人学校、大使館等)に対するテロ攻撃、政治的暴力を示唆する情報には接していません。

しかし

- ・ 日本、ポーランドがアル・カーイダの声明で攻撃対象と名指しされている(2003年10月)
- ・ 両国とも親米路線をとり、ポーランドはアフガニスタンに軍隊を派遣しています。
- ・ ポーランドへは比較的(密)入国しやすい(特にEU加盟国側から)

ポーランドや日本の権益に対するテロが発生する可能性は否定できず

テロに遭わないために ~ 標的となりやすい場所を意識する



- ・ 人の集まる場所(空港、駅、観光名所、ハイパーマーケット等の大型商業施設、宗教施設等)、西側諸国の関連施設で不審な人物、車両、荷物等を発見した場合、速やかに離れる
- ・ テロリスト=中東系との固定観念を捨てる(白人、アフリカ、アジア系も存在)
- ・ 日本大使館HP、外務省海外安全HPで情報入手に努める(大使館が端緒情報入手した合には、速やかに当館HPに掲載します)

3. その他のアドバイス

〈貴重品の保管〉

万一、盗難被害に遭っても貴重品の全てを一度に失うことがないように、現金やカード類を分散して所持するとともに、パスポートは、より盗まれにくい場所に所持してください。また、被害に遭った場合に備えて、パスポートのコピーやカード会社の連絡先を控えておいてください。

旅行者の場合、ホテルの連絡先、旅行日程のコピーを別々に保管しておくといでしょう。

4. 医療関係

〈ポーランドの医療事情〉

主要都市の病院情報を含め以下の当館HPで案内しておりますので、ご参照下さい。
<http://www.pl.emb-japan.go.jp/konsulat/iryoujouhou.pdf>

〈緊急時の連絡先〉

在ポーランド日本国大使館（ワルシャワ所在）

代 表：22-696-5000

住 所：ul. Szwolezerow 8（ウリツァ シュヴォレジェルフ オシエム）

開館時間：午前8時30分から午後5時まで（領事窓口業務：午前9時から午後5時）
土日・祝日及び閉館時間（平日午後5時から翌午前8時30分まで）の緊急
連絡は、代表電話番号より自動転送されます。

ポーランドの公的機関（携帯電話からかける場合は112）

警 察：997

救 急 車：999

消 防：998



〈緊急時のポーランド語〉

ポーランドでは、近年、英語学習が盛んになっていることから、若者を中心に英語が通じることが多くなっています。しかしながら、40歳台以上の世代に英語が通用することはまれです。万が一に備え、助けを呼べる程度のポーランド語を覚えておくと安心です。

- ・助けて！「ポモツィ！」(Pomocy !)
- ・警察をお願いします（呼んでください）「プロシェ ポリツィエン」(Proszę policje)
- ・救急車をお願いします（呼んでください）「プロシェ ポゴトヴィエ」(Proszę pogotowie)
- ・日本大使館「アンバサダ ヤポニイ」(Ambasada Japonii)
- ・警察「ポリツィア」(policja)
- ・病院「シュピタル」(szpital)
- ・パスポート「パシュポルト」(paszport)
- ・現金「ゴトウフカ」(gotowka)
- ・クレジットカード「カルタ クレディトヴァ」(karta kredytowa)
- ・日本語「ヤポンスク」(japonsku)
- ・英語「アンギェルスク」(angielsku)
- ・電話「テレフォン」(telefon)



〈本件に関する問い合わせ〉

在ポーランド日本国大使館・領事部

TEL:22-696-5000(代表)

FAX:22-696-5006

cons@emb-japan.pl